

「核兵器禁止条約 50 カ国批准達成！」 歓迎と決意のメッセージ

「人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています・・・」。そんな一文で始まる、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名（略称：ヒバクシャ国際署名）の願いが、この度大きく前進しました。

2017 年国連で 122 カ国の賛成で採択された「核兵器禁止条約」が、発効条件である 50 カ国の批准を 10 月 24 日に達成し、90 日後の来年 1 月 22 日に発効することが決まりました。条約が発効されれば、核兵器は、開発、生産することも、実験、備蓄、移動、配備、使用及び威嚇することもすべて禁止されます。これまでの長い道のりを思いながら、この運動に賛同し、支えてきたすべての人たちと、条約発効の喜びを分かち合いたいと思います。

さまざまな兵器の中でも「核兵器」は、その残忍さや非人道性が際立っており、人類はもとより、地球を死の星にする悪魔の兵器です。しかし、核兵器の保有が戦争の抑止になるという考えや、原爆により戦争を終わらせたという容認論の逆風に長年さらされてきました。核保有国は性懲りもなく、戦略的核競争を新たに始めようとさえしています。その逆風の中でも、ヒバクシャは「ふたたび被爆者をつくるな」「自分たちが生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい」という強い思いを貫いてきました。

「ヒバクシャ国際署名」は、世界で 1,261 万筆、この岩手でも 20 万筆を超え、特に岩手では県議会と 33 市町村議会すべてから日本政府に署名批准を求める意見書をあげ、県知事と 33 の市町村長が署名するなど大きなうねりになりました。この思いが、岐路に立たされている世界を、命輝く青い地球を目指す方向に一步踏み出させたのです。

それを実現させるには、この道を歩み続ける以外にありません。

「条約」には、84 カ国が署名をしており、批准国は更に増えていくことでしょう。核兵器の保有は世界の安全保障を強化するのではなく、弱体化させていくだけであること、核兵器と人類は共存できないことに世界は気付いています。しかし、それに背を向けている国が核保有国です。

アメリカは批准国に撤回を迫り、発効への妨害さえ行っています。日本も、唯一の戦争被爆国でありながら、署名も批准もしないと表明し、アメリカの核の傘に依存する立場を変えず、「禁止条約」を拒み続けています。

世論調査では国民の 7 割以上が「禁止条約」への参加を求めています。私たちは、日本政府に「条約」への署名と批准の手続きを進めるよう強く求めます。そして被爆国として、核保有国に対し署名と批准を促し、核兵器廃絶に向けた強いイニシアチブを発揮することを求めます。

平均年齢 80 歳を超えるヒバクシャに、残された時間は長くはありません。「禁止条約」の発効とともに、真にこの世界から核兵器が無くなったという歴史的到達を見届けられるよう、日本政府の決断を心から願い、核兵器廃絶を願う皆さんとともに引き続き歩んでまいります。

みなさまの更なるご協力を心からお願いいたします。

2020 年 10 月 26 日

ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会 代表 伊藤宜夫
幹事団体：岩手県原爆被害者団体協議会／岩手県生活協同組合連合会
平和環境岩手県センター／原爆禁止岩手県協議会